

働くことに前向きな若者をつくる

この30年間は日本経済が低迷し「失われた30年」と言われています。各分野の専門家が様々な観点で原因を述べられていますが、原理原則から考えると経済を発展させるために必要なことは、とにかく必死に働くことだと思えます。今回はプレスタPlusを通して大学生の皆さんに伝えたい仕事観をお話しようと思えます。

敗

戦から奇跡の復興を成し遂げ、高度経済成長期の日本を支えた先輩方は死にも狂いで働き、日本を世界有数の経済大国に押し上げました。

ところが「エコノミックアニマル」という言葉で揶揄され「日本人は働きすぎだ」「働くことはかっこ悪い」というイメージを植え付けられました。また、労働基準法により物理的に働けない仕組みを構築され、経営者と労働者の分断化が進んでいるような気がしてなりません。

欧米の価値観では、アダムとイブが禁断の果実を食べてしまい、女性には産みの苦しみ、男性には労働の苦しみを与えた話からもわかる通り、労働とは罰というネガティブな捉え方をされています。

一方、日本では太陽の神で日本神話の最高神である天照大神が、田んぼや機械織り機を持つており、自ら働く様子が神話でも描かれています。このように2684年という世界最古の歴史を持ち、日本が繁栄してきたのは、神様から農民まで全員が懸命に働いてきた背景があるからだと思えます。

日本が江戸末期から明治初期の頃、世界

は大航海時代で欧米列強が世界各地を植民地化していました。タウンゼント・ハリスやイザベラ・バードなど当時訪日した外国人は、農民が勤勉に働く姿に驚いたという記録が残っています。海外では痩せ細って貧相な生活を強いられている身分の低い農民が、日本では四書五経を読み、剣術の訓練をし、筋骨隆々の体格で暮らしていることも衝撃だったようです。反乱があった時代もありますが、天皇陛下を中心に身分の高い人が低い人の生活まで考えており、国全体が豊かだったのが日本です。

4

月より東京本社と横浜事業所でもサービスを開始したプレスタPlusでは、働くことの美学を大学生に伝え「傍を楽にする」という日本人的な仕事観を養っていきたくと思っています。自分が懸命に働くことで会社や地域、日本が良くなり、日本を世界で役に立つ国にしていくという、大きな志を持った若者を輩出していきたくと思っています。そのためには、

日本全国で一人でも多くの方の仕事観を変えていかなくてはいけないと思っています。

会社を設立して20年、しがく式を導入して10年が経過しますが、一部のレベルの高い人だけでなく、しがく式を学んだ方々は大小問わず様々な分野でリーダーとして活躍しています。

大学生の皆さんには、しがく式をアレンジした就職活動向けの教育カリキュラムを無料で受講し、円滑に就職活動を進めていただきたいです。その上で就職活動を通して仕事観を養い、リーダーシップを身につけながら社会で活躍する準備もしてほしいと思っています。

社会人が学んでいるように、月々2万円の月謝をいただいても全く恥ずかしくないサービスを自負していますが、一人でも多くの大学生に学んでいただきたいので、無料という決断をしました。

現在は主要都市のみではありますが、今後10年ほどで日本全国に展開し、日本中の大学生に仕事観を伝え、働くことに前向きな若者を輩出してまいります。



(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲
MURODATE Isao

2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。ブータン王国立マネジメント大学など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパン講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「応援される人」になりなさい」(ワック)がある。